

経営比較分析表（令和6年度決算）

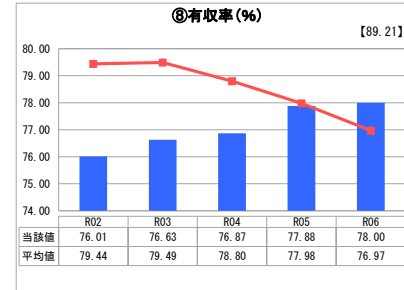
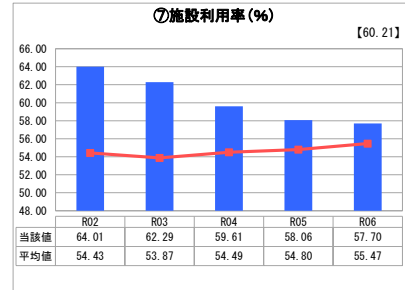
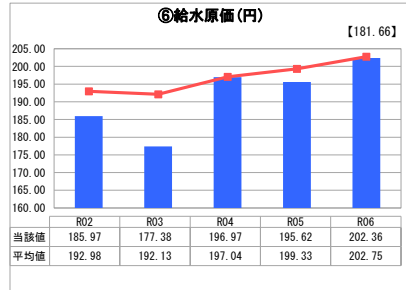
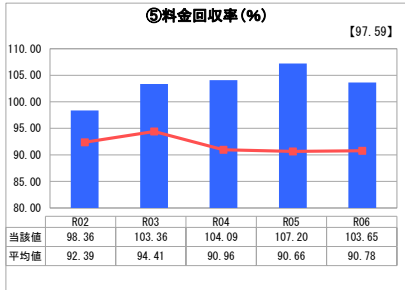
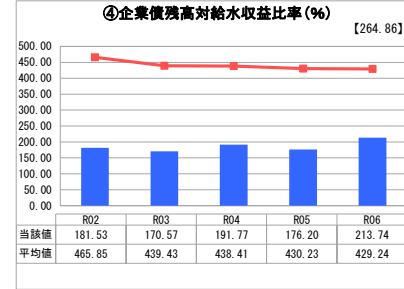
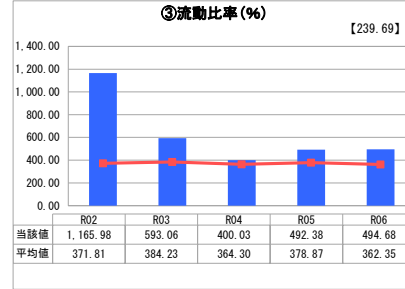
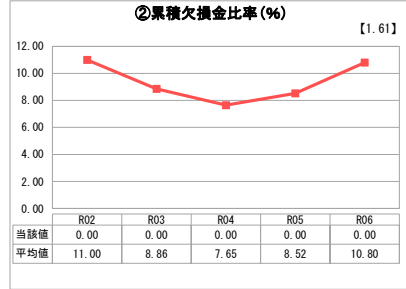
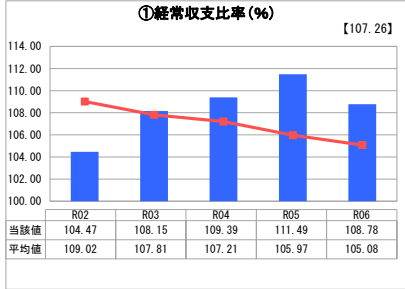
岩手県 雫石町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	85.30	86.09	4,042	

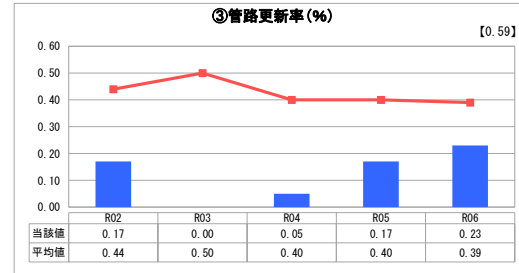
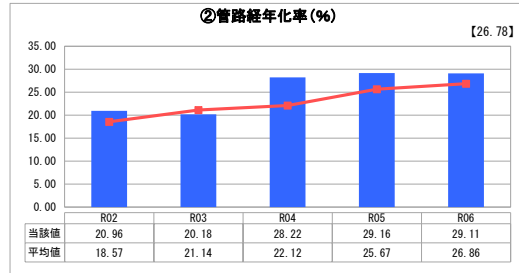
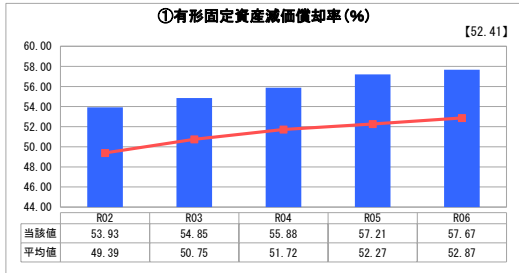
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,995	608.82	24.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,807	91.65	139.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常損益の割合を示す経常収支比率は108.78%となり、類似団体及び全国平均値を上回り、単年度の収支黒字を継続した健全経営を維持しています。しかし、前年度と比較して、主に給水収益の減少及び委託料の増加により、前年度比2.71ポイントの減少となりました。今後は給水人口の減少や物価上昇の影響が続き、収支の悪化が懸念されます。

②累積欠損比率は、営業収益に対する累積欠損金の状況を示す指標で、健全経営の継続により、5年連続0%となっています。

③短期的な債務に対する支払能力を示す流動比率は、100%を上回る水準を維持しており、十分な支払能力があると見えます。

④企業債残高対給水収益比率は、企業債残高の規模を示す指標で、類似団体及び全国平均よりも低い水準で推移しており、順調に企業債償還が進んでいます。

⑤給水に係る費用が給水収益でどの程度賄えているかを表す料金回収率については、水道ビジョンを策定した令和2年度は経常費用が大きく100%を下回りましたが、令和4年度に料金改定をしたことも影響し、その後は100%を上回る水準を維持しています。

⑥給水原価は、有収水量1m³当たりどれだけの費用がかかっているかを表す指標で、類似団体と比較しても大差がない状況です。給水人口の減少などにより有収水量の増加が見込めないことから、引き続き経営改善の取組を実施し費用の抑制に努めます。

⑦施設の利用状況と適正規模を判断する施設利用率については、人口減少や節水機器の普及などにより一日平均配水量が年々減少していることから、利用率も減少しています。

⑧施設の稼働が収益に繋がっているかを判断する有収率は、漏水対策等により、年々有収率が上昇しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化割合を示しています。類似団体及び全国平均よりも若干高い数値になっており、法定耐用年数に近い資産が多く老朽化が進んでいることが読み取れます。

②③法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す管路経年劣化率は、依然として経年化率が高い水準で推移しています。管路更新率は、当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、類似団体及び全国平均と比較して低い状況が続いています。耐震・漏水対策等で管路の更新を進めています。当町は給水人口密度が低く、管路延長が長い傾向にあること、現在施設更新を優先しているため、管路更新に割く予算及び人材が不足していることから、管路更新率の大幅な改善は見込めない状況です。

全体総括

経営の健全性については、類似団体と比較して概ね良好な数値であり、健全性が保たれていると考えます。

しかしながら、今後は給水人口の減少や物価上昇の影響、経年化が進んだ施設や管路等の更新整備費の増加等が要因となり、財務状況が一層厳しくなることが予想されます。

このため、令和7年度に改定する経営戦略に基づき、事業規模の適正化及び効率化に取り組んでいきます。